

# 中学校 国語部会

部会長名 香春思永館 校 長 安藤志保美

実践者名 川崎中学校 主幹教諭 犬丸 成美

## 1 研究主題

多様化する社会の中で自分の考えを確立する

～ 異なる立場から書かれた複数の文章を批判的に読むことを通して ～

## 2 主題設定の理由

現代社会が抱える課題の多くは、単純な二項対立では捉えられず、明快な「正解」が存在しないものが増えている。特に環境問題をはじめとする社会的課題は、立場や価値観によって見方や考え方が異なり、どれか一つの意見を無批判に受け入れるだけでは、課題の本質に迫ることが難しい。

このような多様化する社会においては、多様な意見に触れながら課題と向き合い、それぞれの主張の根拠や妥当性を吟味した上で、最善の道を考え、選択し続ける力が求められている。そこで、本単元では異なる立場から書かれた複数の論説を比較・批評する言語活動を設定し、文章を批判的に読む活動を取り入れた。この文章では、筆者の主張や論理の展開、表現の仕方を根拠に基づいて捉え直す学習ができ、また、これらを通して、対象を多角的にとらえ、課題解決にむけて論理的に考えを深めることもできる。このような学習ならば、生徒が自分なりの考えを確立し、主体的に課題解決に向き合う態度を育むことにつながるのではないかと考え、本教材を設定した。

## 3 主題の意味

### (1) 「多様化する社会」とは

性別、国籍、障がい、価値観など一人一人の違い（多様性）が尊重され、誰もが自分らしく生き、能力を発揮できる社会のことである。単に違いがあるだけでなく、その多様性が社会を豊かにし、新しい価値や活力を生み出す源泉になるという考えかたに基づいてさまざまな人が共存し、活躍できる社会のことを指す。

### (2) 「批判的に読む」とは

内容をそのまま受け入れるのではなく、文章の内容や述べかたについて、信頼性や客観性を吟味したり、自分の知識や経験と比べて、納得できるか否かを検討したりしながら読むことをいう。

## 4 研究の目標

社会生活を支える論理性と課題解決の力を身に付ける

## 5 研究の仮説

「論説の比較や批評などの言語活動を通して、異なる立場から書かれた複数の文章を批判的に読み対象を多角的に分析すれば、課題解決に向け、論理的に考えを深めることができるのではないか。」

## 6 研究の計画（授業計画）

(1) 単元（題材等）「複数の意見を読んで考えよう ―正解が一つに決まらない課題と向き合う―」

(2) 単元（題材等）の目標および指導計画

単元	複数の意見を読んで考えよう ― 正解が一つに決まらない課題と向き合う ―	総時間	5時間	時期	12月
単元の目標	<p>単元の目標 「文章を批判的に読み、論理の展開や表現の仕方を評価し、交流しよう。」</p> <p>○自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知識及び技能)</p> <p>○文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。 (思考力、判断力、表現力)</p> <p>○文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。(思考力、判断力、表現力)</p> <p>○言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習にとり組む態度)</p>				

## 7. 単元における川崎中 OSR の視点

Outlook (見通し)	Support (支援)	Reflection (振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容から、「学習計画表」を作成し、「何を学ぶのか」を明確にして目標を設定する時間を設ける。</li> <li>・「学習計画表」をもとに前時の学習内容を振り返り、毎時間の学習の見通しをもち、めあての達成につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器 (タブレット) を活用して、提言の内容について自分で調べ、思考ツールにまとめられるようにする。</li> <li>・学習で得た知識を整理することで、次の学習に利用する場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習計画表」でこの学習で「何を学んだのか」「次に何をするのか」等を確認する場を設定する。</li> <li>・自分が何をできるようになったのかを客観的に判断する自己評価を行う場を設ける。</li> </ul>

## 8. 単元指導計画 (5時間)

次	時間	学習活動・内容	評価	備考 [評価方法]
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元目標を達成するために必要な学習計画と各自の学習目標を立てる。</li> <li>・3人の筆者の提言を通読し、要旨を捉える。</li> </ul>	主	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な学習について考え、計画を立てて自分の学習目標を主体的に設定することができる。</li> <li>・「環境」について調べ、現代の課題に対する自分の考えをもつ。</li> </ul>
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人の筆者の提言を観点を決めて文章を比較し、それぞれの特徴をまとめる。</li> </ul>	思	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人の筆者の提言について、観点に基づいてそれぞれの要旨や特徴をまとめることができる。</li> </ul>
二	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの提言を評価し、最も説得力のある提言を各自選択し、そのよさを説明するために、調べて意見をまとめる。</li> </ul>	思	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの提言のうち1つを選択し、そのよさを説明するために調べ、自分の意見をまとめることができる。</li> </ul>
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までにまとめた内容をもとに、自分が選択した提言のよさを交流し、伝えあう。</li> </ul>	思	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が選んだ提言の理由・根拠をもとに、お互いが交流し、伝え合うことができる。</li> </ul>
三	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提言に対する評価をもとに、「環境問題」を解決するために今、何が必要か、批評文をまとめる。</li> <li>・単元を通した「ふりかえり」を行う。</li> </ul>	思主	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人の提言や学級で交流した意見を踏まえ、環境問題についての自分の意見をまとめることができる。</li> <li>・単元のふりかえりができる。</li> </ul>

9. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「原因と結果」、「意見と根拠」、「具体と抽象」などの、「情報」と「情報」との関係を理解している。	・観点（提言の要旨・取り上げた事例・論理の展開・表現の仕方・疑問点等）を決めて文章を比較したり、自分の知識や経験と照合したりしながら批判的に読み、筆者のものの方や考え方について考えをまとめ、交流している。	・文章を比較したり、知識・経験と結びつけたりしながら、文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、自分の考えを文章にまとめようとしている。

10. 本時 令和7年度 12月5日 金曜日 第5校時 3年1組教室に於いて

(1) 主眼 ・ ・環境問題に対する提言を選択する活動を通して、それぞれの筆者の提言の内容、論理の展開、表現の仕方などの根拠に基づいてそのよさを説明することができる。

(2) 準備 ・ ・電子黒板・タブレット・教科書・ワークシート

(3) 展開

過程	学習活動・内容	生徒への活動上の支援 ◇評価規準【観点・方法】	形態	配時
導入	1 本時の学習内容を確認する。 (1)「学習計画表」をもとに既習事項をふりかえり、本時の課題を確認する。 (2) 本時のめあてを確認する。	○電子黒板を使って「学習計画表」を提示し、既習事項をふりかえる支援を行う。  ○本時の課題を確認する。(Outlook)	全	3
	めあて 環境問題の提言を選択する活動を通して、提言の内容、論理の展開、表現の仕方などの根拠に基づいたそのよさを説明し、交流しよう。			
展開	2 選んだ提言の理由を確認する。 (1) 選んだ提言の色の思考ツールにその理由を入力した文章を推敲し、「授業支援ソフト」に提出する。 ・(真鍋)科学的根拠に基づき、現状や原因を正しく理解すること(ピンク) ・(伊勢)社会全体で解決できる仕組みを作る(青) ・(堅達ゲンダツ)一人が踏み出す一歩は実は大きな一歩(黄) (2) 提出した原稿について話し合う。	○選んだ提言の根拠を明確にして自分の考えをつくることができるように、以下の支援を行う。  ・学習形態を自己決定する場を設定する。(Support) ・交流原稿の型を活用するように促す。 ・教科書やタブレットで自分が選択した提言について調べるように促し、生徒の理解を支援するようにすすめる。	個 ・ ペ ア ・ グ ル ー ブ	3
	①同じ提言を選んだ生徒と交流する。	○生徒が、選んだ提言の根拠を明確にして自分の根拠を明確にし、よりよい交流原稿にできるように、同じ提言を選択した生徒と根拠を話し合う支援を行う。	・ 教師	12

<p>②自分が選んだ提言以外の生徒と交流する。</p> <p><b>期待する交流内容例</b></p> <p><b>(真鍋) 科学的根拠に基づき、現状や原因を正しく理解すること</b></p> <p>○要旨 問題の認識がずれると解決は難しいので、科学的根拠に基づき、現状や原因を正しく理解することが必要だ。その上で有効な対策を講じることが問題解決のための第一歩である。</p> <p>○事例 産業革命前の千年間の地球の平均気温はあまり変動していない。気候モデルによるシミュレート結果。温暖化は世界の水循環にも影響し、災害が続いている。</p> <p>○論理の展開 研究成果や実際の観測データ等科学的根拠に基づいて、地球温暖化の現状や原因を理解することの重要性を訴えている。</p> <p>○表現の仕方 研究成果や実際の観測データに基づいて客観的な視点から考えを述べている。「わかってきた」「疑う余地がない」など専門家的な断定表現が多い。</p> <p>○疑問点 ①真鍋さんが考える地球温暖化対策とは何か。②地球温暖化の被害は地域や世代によって異なるため、問題の向き合い方に温度差がある。」という根拠は何か。</p>	<p>○誰が何の提言を選択したか理解するために、自分が選択した提言以外の生徒と交流する支援を行う。</p> <p>○提言の交流時には、その内容が「根拠」に基づいているかどうかを生徒が評価できるシートを準備する。</p> <p>◇各自が提言を選んだ理由をその内容、論理の展開、表現の仕方などを根拠に基づいてそのよさを説明することができる。 【思考力判断力表現力】</p>	<p>12</p>
<p>(3) 自分の考えを再構築する。</p> <p>交流した意見を踏まえて、3つの提言のうち、最終的に選択した提言の色の思考ツールに自分の意見を入力して提出する。</p> <p>3つの提言の交流の結果、私は環境問題の解決に必要なのは( )することだと考える。これは、(真鍋・伊勢・堅達)さんが、( )と提言していることである。たしかに( )さんが主張しているように、( )であるともいえる。しかし、私は、( )することが環境問題の解決のために必要なことだと考える。</p>	<p>○交流後、自分の提出した考えを見直すために、自分が選択した提言以外の生徒と交流する支援を行う。</p> <p>○生徒が交流した意見を踏まえて、わかりやすく有効だと考えた提言を選択して、自分の意見をまとめられるよう支援する。</p>	<p>個 8</p>
<p>(4) 全体の意見を交流する。</p>	<p>○生徒に、交流した作品の中で、各自の視点や考え方の違いを全体で確認する支援を行う。</p>	<p>全 7</p>

ま と め	3 本日のふりかえりを行う。		個	5
	<div data-bbox="264 253 1275 360" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ (例) 自分が選んだ提言のよさを相手に伝えるためには、根拠に基づいてその筆者の提言の内容、論理の展開、表現の仕方に着目し、説明することが効果的である。</p> </div> <div data-bbox="264 421 815 689" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①はじめは～だったが、～に取り組んだので、～に変化した。 ②～に取り組んだので～ができた。 ③～することができなかった。 次に～を行えば、～ができるかもしれない。</p> </div>	<div data-bbox="847 421 1278 517" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○自分が何をできるようになったかを客観的に判断する自己評価を行う場を設ける。(Reflection)</p> </div> <p>○生徒の考えの変容や、課題に対する態度を把握するために、「学習計画表」をもとに、この学習で「何を学んだのか」「次に何をするのか」等を確認する場を設定するための支援を行う。</p>		

## 11 成果と課題

本単元を通して、生徒は筆者の主張をそのまま受け取るのではなく、「なぜそう言えるのか」「その根拠は妥当か」と問い返しながら文章を読む姿勢を徐々に身に付けていった。一文一文の表現や事例、データに、その都度立ち止まりながらも、少しずつ読み進める中で、提言に対する疑問や評価を自分なりに言語化しようとする姿が見られるようになった点は、大きな成果であったと考える。

一方でこうした批判的な読みの姿勢を、一つの単元に留めるのではなく、他教材の読解や自己の意見表現へと継続的に生かしていくことが今後の課題である。そのためには、生徒自らが問いをたて、根拠をもとに考えを深められるような教材設定や発問、支援の在り方をさらに工夫していく必要がある。今後も生徒が多様な考えにふれながら、自分の考え方を確立していけるよう、指導方法について継続的に研究を重ねていきたい。